

2人とながって

(1) 礼儀正しく真心をもつて

P.56~59

2-(1)

時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。

1 この内容項目のページの特徴

他の人との関わりにおける習慣の形成に関する内容項目であり、状況をわきまえて真心の込められた適切な言動ができる児童を育てようとするものである。礼儀は、相手の人格を尊重し、相手を敬愛する気持ちを具体的に示すことであり、心と形が一体になって表れてこそその意義が伝わる。つまり礼儀とは真心が礼儀の形に表れることである。

このことを踏まえて、本内容項目においては、五十六・五十七ページで挨拶の意味を改めて考えるところにも、心を伝える形について考え、書き込み欄に書くようにしている。また、五十八・五十九ページでは「江戸しぐさ」を題材に、礼儀正しい行為をすることで、自分も相手も気持ちよく過ごせることを考えていくようにしている。

2 活用のポイント

高学年の段階では、礼儀作法についての正しい理解と時と場をわきまえた適切な言動が求められる。特に、礼儀の形に込められた相手を尊重する気持ちを考えさせるようにし、その上で具体的な場面で礼儀正しい振る舞いができるように態度を育てていくようにしたい。

3 活用場面例

道徳の時間

五十七から五十九ページを読んで、具体的な例を参考に、礼儀の形に込められた真心について自分の経験を踏まえて考え、自分の生活の中で、どのように振る舞えばよいのかを考えるようにする。



P.56~57

事例

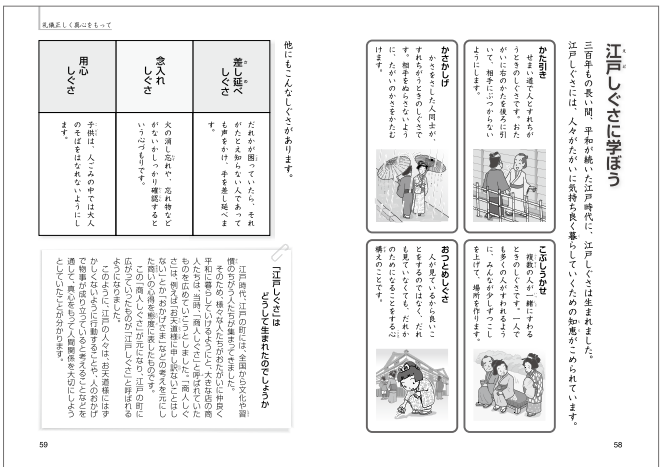
①五十七ページを読んで、「礼儀とは真心の表れ」とはどういうことかを自分の体験を基にして考え、話し合う。

特別活動（児童会活動）・家庭や地域との連携

児童会活動として実施する挨拶運動の事前指導などにおいて、礼儀について考える際に本内容項目のページを活用することができる。また、家庭や地域でも実践している礼儀や作法について考える際にも活用できる。

事例

- ①児童会の代表者などが全校集会で、本内容項目のページを紹介しながら、挨拶運動の意義を話す。
- ②学校・学級通信等で、本内容項目のページを紹介し、挨拶運動の意義を家庭に伝えて挨拶運動を家庭や地域でも積極的に推進してもらおうよう依頼する。
- ③各学年で本内容項目のページを活用して、挨拶の意義を継続的に指導する。
- ④活動の状況などを児童会で取りまとめ、全校集会や学校新聞等で紹介する。
- ⑤活動の状況や結果は、家庭や地域にも伝え、挨拶運動の期間が終わった後も、引き続き、推進してもらおうよう依頼し、日常的な実践につなげていく。
- ⑥五十六・五十七ページを家の人と一緒に読んで、日頃挨拶がどの程度できているかを振り返ったり、五十七ページの「相手に心を伝える形」を家の人と一緒に考えて書いたりする。



P.58~59

- ②五十七ページの茶道や柔道に見られる伝統的な礼儀作法、五十八・五十九ページの「江戸しぐさ」を例にして、再び「礼儀とは真心の表れ」ということについて考え、今までの自分の振る舞いに真心が込もっていたかを振り返って話し合う。
- ③学習を振り返りながら、五十七ページの書き込み欄に相手に心を伝える形にはどのようなものがあるかについて書き込む。また、今後、具体的にどのような振る舞いを心掛けようと思うのかについても併せて書く。

2人とながって

(2) 相手の立場に立って親切に

P.60~69

2-(2)

だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。

る対応が異なることにも気付かせたい。

1 この内容項目のページの特徴

本内容項目は、学習指導要領で示されている道徳の指導内容の重点の一つである相手の立場を理解し、支え合う態度を身に付けることと関連の深い項目である。

人間は、他の人との交流を深め、人間愛の精神に支えられることによって、力強く生きることができると。本内容項目では、人と豊かに関わり合いながら生きていくこと、特に相手の立場に立って考えること、相手への思いやりをもつこと、その思いやりを形として行動に表せるようになることなどについて考えることができる構成になっている。

これらのページを通して、相手を思う気持ちを行動としてどのように表せばよいかや、電子メール等を介しての人との関わり方など具体的な場面について考え、思いやりをもち、相手の立場に立って親切にする態度を育てていくようにしたい。

2 活用のポイント

高学年の段階では、特に、どのように相手と接し、対処していくことが相手のためになるのかをよく考え、相手の立場に立って親切にすることの大切さに気付かせていく必要がある。誰に対しても思いやりの心をもって接するためには、その相手の立場や状況によって望んでい

3 活用場面例
道徳の時間

六十・六十一ページは、児童が自分自身の人との関わり方を振り返って、思いやりについて考える際に活用することができる。

自分自身のことを振り返って体験を発表する際には、そのときの自分の思いや、相手の表情、相手との会話などにも触れながら、人との関わり方を考えていくようにしたい。

事例

- ① 親切にしたいくても行動できないのはどうしてなのかを六十一ページに書いて発表する。
- ② 読み物資料「最後のおくり物」を読んで話し合う。



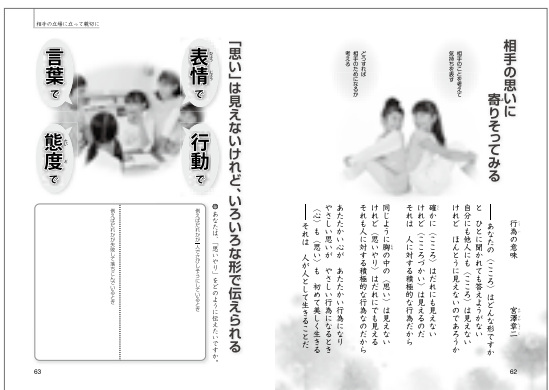
P.60~61

- ③ 六十ページのイラストの場面と同じような体験を振り返って、そのときの状況や自分の行動について話し合う。
- ④ 六十一ページのイラストの場面では、どのように行動すると思いきやりの心が表せるのかについて考え、話し合う。

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全」の「ウ 望ましい人間関係の形成」の指導に当たって、自分のことばかりでなく、相手の立場に立って考えること、相手を思いやる態度や人権を尊重する態度について考える際に六十二・六十三ページを活用できる。

その際、六十三ページを参考に、表情、言葉、行動、態度が人間関係に影響するということについても気付くことができるようにする。また、望ましい人間関係づくりのために、自分が取り組みたいことを決め、実行できるようにする。



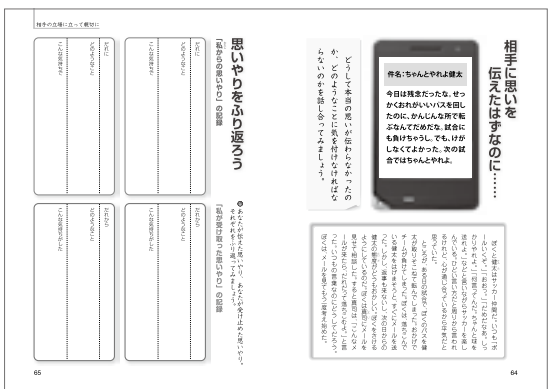
P.62~63

家庭との連携

今般、携帯電話などの情報機器は、児童にとっても身近なものとなり、その使い方によっては、人との関わりなどに関して問題を生じる状況も見られるようになった。この問題に対応するためには、家庭における保護者の理解と協力が重要である。電子メールをはじめ、インターネット等の便利な点や危険性などについて、学校と家庭で共通理解を図った上で、六十四ページを活用して、電子メールの場合のコミュニケーションの仕方や注意事項などについて、学校と家庭の双方で考えさせていくようにしたい。

日常生活

六十五ページを活用して、学校や家庭での生活の中で伝えた思いやりや受け取った思いやりを記入しておく。誰に何をしたらか、誰から何をしたらかだけでもなく、そのときの自分の思いや、相手の表情、言葉、行動、態度についても具体的に記しておくようにしたい。こうして日常的に記述してきたことは、道徳の時間に、自分自身を振り返る場面でも活用することができる。



P.64~65

1 資料の特性

主人公のロペーヌは、守衛のジョルジュが書いた最後の手紙を読み、初めて自分への温かい思いやりに気付く自分のことしか考えていなかったロペーヌが、相手を思いやることの大切さに気付き、人を思いやる生き方をしようとする姿から、相手の立場を考えた親切について考えることができる資料である。

ジョルジュからの最後の手紙を読む場面でのロペーヌの思いを話し合わせるとともに、「最後のおくり物」に込められたジョルジュの思いについても十分に考えさせるようにしたい。

2 指導上の留意点

本資料の活用にあたっては、俳優になるのが夢である主人公のロペーヌの思いや考えを想像させるようにする。また、ロペーヌの生き方や考え方に大きな影響を与えることになるジョルジュの思いや考えについても十分に話し合わせるようにしたい。ジョルジュからの温かい思いやりに気付くロペーヌの思いを想像させることで、本当の親切について考えさせていくようにしたい。

じいさんの思いやりの気持ちの大きさに涙が出てくる。

④ 人に親切にできたことやできなかったこととして、どのようなことがあるか。そのときの思いも含めて話し合う。

事例②

本当の親切について考える展開

【主な学習】

- ① 「最後のおくり物」に込められたジョルジュじいさんの思いは、どのようなものか。
 - ・ ロペーヌが困っているのではないかと思つて、ロペーヌのためにお金を届けようとしたロペーヌを思いやる気持ち。
 - ・ どこまでもロペーヌの夢を応援しようと思つて、ロペーヌのことを考えた優しい気持ち。
- ② 本当の親切とは、どのようなことかと思つるか。
 - ・ 相手の立場に立つて相手のことを考えてすること。
 - ・ 相手の幸せを願つて相手のためにすること。
- ③ 人に親切にすることの難しさや大切さを自分の経験を振り返つて話し合う。

3 展開例

【ねらい】

誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立つて親切にしようとする態度を育てる。

事例①

ロペーヌの思いを通して、親切について考える展開

【主な学習】

- ① お金が急に届かなくなり、思わず唇をかんでいるロペーヌは、どのような思いか。
 - ・ なぜ、急に学費が届かなくなったのか。これでは僕は劇団で学ぶことができない。どうしよう。
 - ・ せっかく力が付いてきたところなのに困った。
 - ・ 月謝が支払えなくなってきた。このままでは辞めさせられてしまう。
- ② 「ぼくが付きそいます。息子なんです。」と、きつぱりと言ったのは、ロペーヌのどのような思いからか。
 - ・ 今まで僕のために働いて学費を送ってきてくれたジョルジュじいさんのために何かしなくてはいけない。
 - ・ こんな体になるまで僕のために働いてくれてすまなかった。なんとか恩返しをしなくては。
- ③ ジョルジュじいさんからの「最後の手紙」をもう一度読みながら、ロペーヌはどのようなことを考えていたのか。
 - ・ ジョルジュじいさんは、こんな状態でも僕のことを考えてくれていたんだ。なんて優しい人なんだ。
 - ・ 僕のことをこんなにも思ってくれていたのか。最期まで、僕のために思ってくれてるなんて。ジョルジュ

二の視点 重点ページ

分かり合うこと 支え合うこと

1 ハのページの特徴

毎日の学校生活や友達関係における人との関わり合いについて、改めて考えることができる作品である。

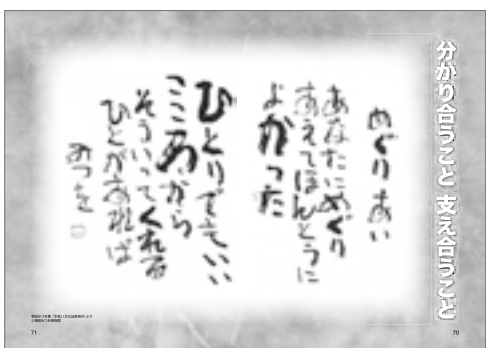
「めぐりあい」というタイトルからも、人との出会いや関わり合いに関して、思いやり支え合う人間関係の温かさを感じることができている。

2 活用事例

■ 日常生活

このページを用いて人間関係を振り返らせ、思いやり支え合う温かな人間関係が学級に広まるようにしていくことができる。

このページを拡大し、掲示資料として学級内や廊下などに貼って、活用することも考えられる。



P.70~71

P.70~71

2人とつながって

(3) たがいに信頼し、学び合って

P.72~79

2-(3)

互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。

1 この内容項目のページの特徴

高学年になり、これまで以上に友達を意識し、仲のよい友達との絆を深められる時期に入ってきている。その反面、友達関係で悩むことも今まで以上に多くなる時期でもあり、本内容項目のページを活用して、健全でよい友達関係を育てていくようにしたい。

七十二・七十三ページの言葉や格言を読んで、自分自身にとって友達とは何かを考えたり、友達との付き合い方について七十四ページのグラフと比較して自身の在り方を省みたり、また、七十五ページの作文を基に男女仲よくすることの大切さについて考えたりすることができ、友達との関わりは、児童の日々の生活において重要な事柄である。これらのページを活用して、児童が自分自身を振り返り、友達のよさや友情のすばらしさについて改めて考えていくことができるようにしたい。

2 活用のポイント

本当の友達、真の友情についてじっくりと考えさせたいとき、また男女間の友情、異性への理解を深めさせたときなどに、本内容項目のページを活用したい。友達がいるのは当たり前という意識から、友達がいてくれてよかったという意識に高められるように指導した

い。

3 活用場面例

道徳の時間

一緒に遊ぶだけでなく、互いに信頼し、学び合ってこそ友情が深まるということについて考える際に、七十二・七十三ページを活用することができる。

事例

①七十二ページの言葉を読み、写真を見て、自分にとって友達とはどのような存在か



P.72~73

について話し合う。

- ② 読み物資料「知らない間の出来事」を読んで話し合う。
- ③ 七十三ページの「あなたにとって友達とは。」について自分の経験を基に記入し、話し合う。
- ④ 七十三ページの格言を読んで、思ったことを発表する。

特別活動（学級活動・学校行事）

学級活動の内容「(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全」の「ウ 望ましい人間関係の形成」の指導に当たって、友達と仲よくすることや男女の協力について考える際に七十四・七十五ページを活用することができ。

望ましい人間

関係、友達関係、男女の協力などで結ばれた学級は、児童にとって温かな居心地のよい場所となる。学年や学期の始めなど、人間関係を新しく築いたり、立て直したりする時期での活用が考えられる。



P.74~75

その他、例えば自然教室や修学旅行など集団宿泊活動の事前・事後などにおいても活用することが考えられる。

事例

- ①七十四ページのグラフを見て、友達との関わりについて考える。
- ②友達との付き合い方について、大切にしたいことを七十四ページに記入し、話し合う。
- ③七十五ページの児童作文を読んで、男子と女子の友情について思ったことや考えたことを記入し、話し合う。
- ④学級の仲間と温かい人間関係を築くために、自分が心掛けたこと、実践したいことは何かを決め、実行できるようにする。

家庭との連携

友達関係の悩みが多くなる高学年の段階においては、学校と家庭との連携が一層重要になってくる。七十四ページのグラフを活用するなどして、家の人と児童と一緒に友達との関わり方について話し合う機会を設けるよう促す。

その際、本内容項目の学習状況を、学級通信や保護者会等で事前に知らせておくと、家庭での話し合いがスムーズに行われる。

また、いじめの問題等の防止や対応として、七十二から七十九ページを家庭でも活用するように促し、児童とのコミュニケーションを図る中で、児童の人間関係の把握に努めるよう呼び掛けることもできる。

1 資料の特性

本資料は、情報モラルにも関わる資料である。転入生のあゆみは、みかからメールアドレスを教えてくださいと言われるが、携帯電話を所有していなかったために、家の電話番号を伝える。がっかりしたみかは、そのことを何気なくメールに書いて友人に送る。すると翌日、あゆみは前の学校で仲間外れにされていたというゆがめられた内容が他の人に伝わってしまったという内容である。

社会の情報化が急激に進展し、コンピュータや携帯電話等が普及することによって、情報化の光の部分では情報の収集や発信などが容易にできるようになった。その一方では、情報化の影の部分が深刻な社会問題になっている。

本資料は、携帯電話の普及を背景とし、軽卒なメールをきっかけとして友達を傷付けてしまった人間関係のトラブルを題材としている。

2 指導上の留意点

本資料の活用にあたっては、みかとあゆみそれぞれの立場からこの出来事を捉え、互いに高め合えるよりよい友達関係を築くために大切なことは何かについて考えさせたい。

話しようとしているみかはどのようなことを伝えようとしているか。

- ・ 私が勝手なことを言って、こんなことになったの。あゆみさんに悲しい思いをさせてしまって、本当にごめんなさい。
- ・ まさか、こんなことになるなんて。本当は仲よくしたかったのに。ごめんなさい。これから仲よくしていきたいの。本当にごめんね。

④ みかは、この出来事について、どのようなことを思っているのだろうか。

- ・ 勝手な推測をして、メールで流すべきではなかった。人のうわさをメールで流すのは、人を傷付けることにもつながる。今度から気を付けなければ。
- ・ 私の送ったメールがこんなふうになんて伝わっていきな。私も悪いんじゃないかな。私だけのせいなんだろうか。

事例②

あゆみの思いを通して、友達との関わりについて考える展開

【主な学習】

- ① みかに声を掛けられ、携帯電話のメールアドレスの代わりに、家の電話番号を書いて渡したあゆみは、どのようなことを思っていたか。
 - ・ 早速、友達ができそう。仲よくしていきたいな。
 - ・ 携帯電話がなくても家の電話で話せばいいし、大丈夫

また、児童には、情報化の影の部分についても考えさせ、その危うさを理解させるとともに、情報機器の活用にあたっては、慎重な行動が不可欠であることも認識させるようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

互いに信頼し合い、友情を深めていこうとする態度を育てる。

事例①

みかの思いを通して、友達との関わりについて考える展開

【主な学習】

- ① あゆみが携帯電話を持っていないことを知ったみかは、どのようなことを思ったか。
 - ・ せっかく友達になれそうなのに、携帯電話を持っていないなんて。友達いなかったのかな。
 - ・ 携帯電話を持っていないなんて、なんだか私たちの仲間とは雰囲気が違うな。がっかりした。
- ② 帰りの会のとき、あゆみの気持ちを知ったみかは、どのようなことを考えたのか。
 - ・ 軽率なことをしてしまった。勝手な推測であゆみさんを傷付けてしまった。謝りたい。
 - ・ 自分の言葉がこんなふうにあゆみさんを傷付けてしまったなんて。相手のことをもっとよく考えて行動すべきだった。
- ③ 電話番号の書いてある紙をきれいに戻し、あゆみに電

夫。私も話したいな。楽しみ。

- ② あゆみが自分のことで根も葉もないことをメールで流されたことを知って、どのようなことを思ったか。
 - ・ ひどい。どうしてそんなことになったの。誰のせい。誰かが私を仲間外れにしようとしているのかな。
 - ・ このままだと本当に仲間外れになってしまう。きちんと説明しないと。

③ 脇目も振らずに家に向かうあゆみはどのようなことを思っているか。

- ・ これからこのクラスで仲よくしていけるだろうか、不安。いじめられているのかな。
- ・ どうしてこんなことになってしまったんだろう。自分は何も悪いことをしていないのに、悲しい。
- ④ なぜ、このような出来事が起こったのだろうか。
 - ・ みかが勝手な思い込みでメールに書いて送ったことが、いろいろな人の間で少しずつ変わって根も葉もないことが広まってしまったから。メールの扱いは気を付けなければならない。

あゆみが携帯電話を持っていないことで、みかは、少し心の距離を感じて、あんなことを書いてしまった。

⑤ 友達との付き合い方について、大切にしたいことを七十四ページの書き込み欄に記入する。

- ・ 友達のことを考えて接することが大切。そのためには、思っていることを伝えて、信頼を深めていかなければならない。
- ・ 直接、友達に会って友達の思いも聞きながら、自分の思いを伝えていくことが大切。

2人とながつて

(4) けんきょに、広い心をもって

P.80~87

2-(4)

謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切に
にする。

1 この内容項目のページの特徴

広がりや深まりのある人間関係を築くために必要な、謙虚な心と広い心をもった児童を育てようとする内容項目に関するページである。自分と異なる意見を素直に聞き、相手の立場に立って考える態度を育てることが求められる。

そうしたことから、本内容項目のページでは、相手に寄り添うことの大切さを問い掛けたり、広い心をもつために大切なことを分類、整理してまとめたりしている。また、読み物資料「ブランコ乗りとピエロ」の他、読み物コラム「銀のしよく台」についても、道徳の時間の中心的な資料として活用できる。

2 活用のポイント

高学年になると、活動範囲の広がりに伴って人間関係も複雑になり、人と関わる喜びと同時に悩みも増えてくる。そのような悩みを解決する糸口として、広い心をもつことが大切であることを児童に自覚させるようにしたい。本内容項目のページの構成を生かして、広い心とはどういうことかを考えさせるとともに、それをもつことの大切さと難しさ、広い心をもつための心掛けを考えさせるようにしたい。

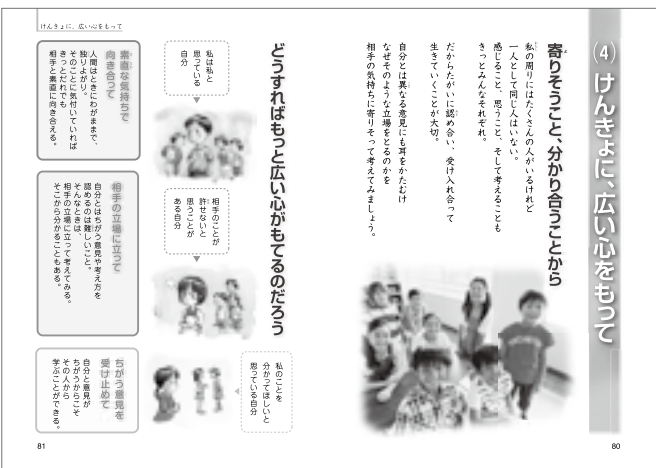
3 活用場面例

■道徳の時間

導入の段階で八十ページを読み、学習の意欲を高めるとともに、道徳的価値に関する意識を高める。

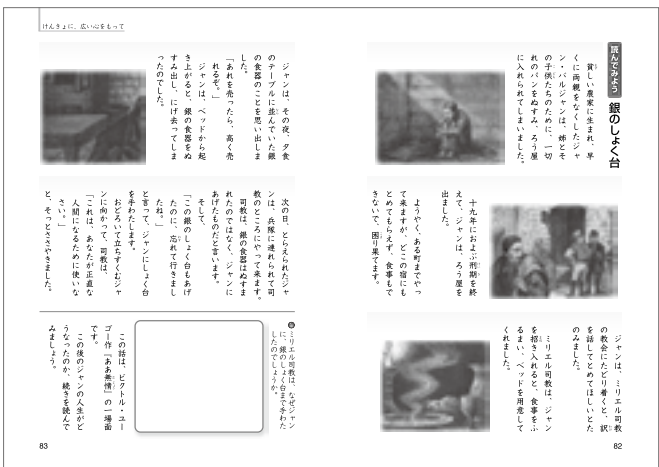
また、八十一ページを読み、広い心について考えを整理する。

さらに終末の段階で八十二・八十三ページの「銀のしよく台」を読み、ミリエル司教がしよく台を手渡した思いを話し合い、広い心をもつことの大切さについて考える。



P.80~81

授業後に、この物語を読むことなどを通して、児童が謙虚な心、広い心についての感じ方や考え方をさらに深めることもできる。



P.82~83

事例

- ① 八十ページを読んで、異なる意見や立場をどのように受け止めればよいか考える。
- ② 読み物資料「ブランコ乗りとピエロ」を読んで話し合う。
- ③ 八十一ページを読み、自分自身を振り返りながら、広い心とは、どういう心か、どのようにすればもっと広い心をもてるのかについて話し合う。

■特別活動（児童会活動）

児童会活動として、広い心に関するスローガンやポスターなどを作製し、学校全体に呼び掛けていく活動を行う際に、本内容項目のページを参考にすることもできる。

■家庭との連携

学級通信等で本内容項目についての学習状況を家庭に伝え、学習を深めるために、授業後の協力を依頼する。

事例

- ① 道徳の学習で学んだこと、考えたことを、家の人に伝えるよう児童に促す。
- ② 読み物コラム「銀のしよく台」を家の人と一緒に読む。
- ③ ミリエル司教がどのような思いで、ジャンに銀のしよく台まで渡したのかを家の人と話し合い、八十三ページに記入する。
- ④ 謙虚な心、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にできた経験について、家の人と話し合う。

■日常生活

学校全体で広い心をもって生活することを呼び掛ける際に、八十一ページを拡大掲示して活用することもできる。

1 資料の特性

サーカスのリーダーであるピエロは、自己中心的な振る舞いをするプノンコ乗りのサムに一方的に腹を立てていた。しかし、必死に頑張るサムに接し、広い心と謙虚さを取り戻して、互いの心を通い合わせる物語である。サムは身勝手な所もあるが、誰よりも真摯に演技に向き合っていることに気付いたピエロは、サムを受け入れ、サーカス団の一員であることを論ずる。

ピエロの心の動きなどを自分との関わりで考えることで、人に広い心で接して、自分と異なる立場や考えを受け入れることの大切さについて深く考えることのできる資料である。

2 指導上の留意点

高学年の段階では、互いのものの見方、考え方の違いをこれまで以上に意識するようになってくる。だからこそ、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような意見をもっているのかを相手の立場に立って考えることが一層重要になってくる。

謙虚な広い心で人と接するためには、相手の立場に立って考えることが大切である。そのことに気付き、自分と異なる意見や過ちなどに対しても、広い心で受け止める態度を育てていくようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする態度を育てる。

事例①

ピエロの思いを通して、広い心について考える展開

【主な学習】

- ①ピエロは、どのような気持ちで大王アレキスのサーカス見物についての注意をサムにしていたのか。
- ・自分だけが目立とうとするに決まっている。勝手なことをしないように注意しておかなければ。
- ・サムのことには信用できない。自分勝手に腹が立つ。
- ②演技を終えてぐったりしているサムを見たとき、ピエロはどのようなことを考えたのか。
- ・サムはこんなにもサーカスのために頑張っていたのか。
- ・自分はサムほど必死にやっていたのだからか。
- ③仲間に責められるサムのために声を上げたピエロは、どのような気持ちで仲間語り掛けたのか。
- ・サムを許すことは難しいかもしれないが、誰よりも努力していることも知ってほしい。
- ・サムのことを認めて、みんなでもっとよいサーカスをつくっていききたい。
- ・サムにも、みんなと協力することの大切さを分かっしてほしい。
- ④これまでに、相手の立場を考えて、広い心で接することの大切さを感じたことはあるか。
- ・グループの中で意見が違ってても、まずは相手の意見を

を聞いて、互いの考えを話し合い、相手にも納得がいくように問題を解決したことがある。

- ・友達とけんかをしたとき、友達の方から先に謝ってくれた。自分も悪かったので、自分からも謝った。
- これからは、自分から先に謝れるような広い心をもちたいと思った。

事例②

サムとピエロの両方の思いを通して、異なる意見や立場を大切にすることについて考える展開

【主な学習】

- ①ピエロがサムを注意する場面で、それぞれの思いを考える。
- (サム)
 - ・いちいち注意してきてうるさい。他の人のことなんかどうでもいい。
 - ・僕が一番なんだ。何が問題なんだ。
 - (ピエロ)
 - ・自分だけという考えではいけないんだ。
 - ・サムが活躍しすぎると自分が目立たなくなる。注意しておかなければ。
- ②大王アレキスのサーカス見物の場面でのサムとピエロの思いを考える。
- (サム)
 - ・自分の演技を真剣にすること。自分にとってはそれが大切なんだ。
 - ・最高の演技ができるのは僕なんだ。全力を尽くしたい。

(ピエロ)

- ・帰ってきたら、また注意しなければ。もう我慢できない。
- ・あれほど言ったのに、なんて勝手なんだ。

③最後のサムとピエロが話し合う場面で、それぞれの思いを考える。

- (サム)
- ・自分が意地になっていたのかもしれない。ピエロが分かってくれてうれしい。
- ・自分も勝手なことばかりしていたことは反省しなければならぬ。
- (ピエロ)
- ・サムの話したことは勝手なことではあるが、彼のサーカスへの思いはすばらしいものだ。その思いは認めなければ。
- ・サムの自分勝手な行動は直してほしいが、彼の演技に対する思いは、みんなにも認めてもらいたい。自分もサムを許したい。
- ④広い心をもって、相手の考えを認めたり、過ちなどを許したりするために大切なことは何か。
- ・相手の考えを聞こうとすること。認めて受け入れることが大切。
- ・人を許すことで人との関係がよくなり、同じような衝突が起きなくなる。自分のこと、今のことだけではなく、相手のこと、今後のことを考えることも大切。

※①から③の発問では、役割演技を活用することもできる。